

 **e-VA** イーブイエー  
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険(無配当)  
特別勘定グループ (GW)

特別勘定マンスリーレポート

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

〈引受保険会社〉

アクサ フィナンシャル生命保険株式会社

160-8335 東京都新宿区西新宿1-23-7 新宿ファーストウエスト10F  
TEL 03-6911-9100 FAX 03-6911-9260  
<http://www.axa-financial.co.jp>

特別勘定名称

# 日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	7.56%	▲7.96%	▲27.26%	▲34.43%	▲50.13%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.5%
投資信託	96.5%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックス225VA	▲7.61%	▲27.29%	▲34.23%	▲21.04%	▲1.36%
日経平均株価(225種・東証)	▲8.47%	▲27.98%	▲35.26%	▲21.96%	▲2.22%
差異	0.86%	0.69%	1.02%	0.92%	0.86%

### <純資産総額>

純資産総額 150.43億円

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。  
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。  
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

### <株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウエイト
1 電気機器	20.20%
2 小売	8.37%
3 情報・通信	8.08%
4 医薬品	7.88%
5 化学	7.14%
6 輸送用機器	6.42%
7 機械	4.55%
8 食料品	4.12%
9 精密機器	3.32%
10 サービス	2.67%

※ファンドのウエイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウエイト
1 ファーストリテイリング	5.52%
2 ファナック	3.28%
3 京セラ	3.20%
4 信越化学工業	2.36%
5 ホンダ	2.29%
6 KDDI	2.28%
7 キヤノン	2.09%
8 ソフトバンク	1.86%
9 TDK	1.80%
10 東京エレクトロン	1.80%

(組入銘柄数224銘柄)  
 ※ファンドのウエイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <資産構成>

株式	98.69%
一部上場	98.69%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	1.31%
株式実質	100.01%
現金その他	1.31%

※当ファンドの実質の組入比率です。

### <運用コメント>

月初7,568円42銭の日経平均株価は、根強い欧米の金融不安や米国株式市場の下落を受け、軟調に始まりました。公的年金の買い観測などに下支えされる局面もありましたが、景気悪化の長期化懸念から主力株を中心に売りが膨らみ、7,054円98銭まで下落しました。その後、底堅い米国の経済指標や金融不安の緩和を好感し、日経平均株価は大きく反発しました。月半ば以降は、世界的に株式市場が堅調に推移するなか、政府の景気刺激策への期待や為替相場での円安基調、さらに日米の金融当局による追加的な金融緩和などを支援材料に、日経平均株価は上昇幅を拡大しました。月末にかけては、利益確定の売りに押され、日経平均株価は下落に転じたものの、8,109円53銭で月末を迎えました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株 アクティブ型 (GW)	5.93%	▲5.50%	▲27.57%	▲36.15%	▲50.66%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.4%
投資信託	96.6%
合計	100.0%

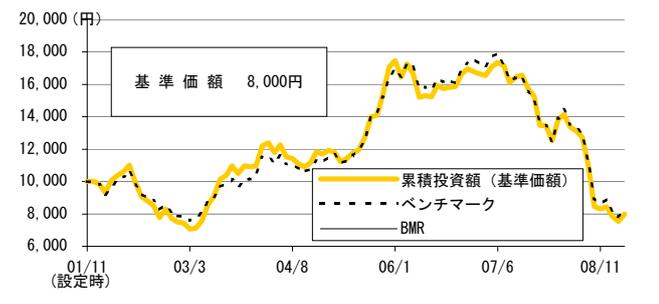
## 【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。

設定来の運用実績 (2009年3月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は信託報酬控除後のものです。

### <運用コメント>

3月の株式市場は、安値圏から急反発に転じ、月間ではプラスとなりました。金融不安の深刻化に対する懸念から株価は軟化して始まり、中国政府の追加景気対策期待を背景とした株価持ち直しも束の間、上旬はほぼ連日バブル崩壊後の安値を更新する展開でした。月半ば以降は様相が一変、欧米金融機関の業績が足元で好転しているとの報道が相次ぎ急反発した米国市場の流れを受け、日本株も反騰に転じました。各国当局による追加景気・金融対策への期待が高まる中、市場予想を上回る米住宅関連指標や米政府による金融機関の不良資産買取り計画などの好材料も重なり、株価は一段高となりました。月末には米自動車大手の破綻懸念から利益確定の売りが膨らみましたが、下落幅は限定的でした。

月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+3.45%、日経平均株価は+7.15%となりました。上昇した業種はその他金融業、証券、商品先物取引業、ガラス・土石製品などでした。下落した業種は電気・ガス業、情報・通信業、医薬品などでした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

### ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

#### <資産別組入状況>

株式	95.3%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	1.1%
現金・その他※	3.6%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)2.8%を含みます。

#### <市場別組入状況>

東証1部	86.7%
東証2部	-
ジャスダック	2.9%
その他市場	6.8%

#### <組入上位5業種>

電気機器	18.3%
輸送用機器	10.5%
機械	8.1%
情報・通信業	6.8%
化学	5.6%

(対純資産総額比率)

\*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

\*ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	3.92%	▲4.11%	▲35.05%	▲45.33%	▲51.01%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.5%
投資信託	96.5%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	4.26%	▲ 3.77%	▲ 35.22%	▲ 45.44%	▲ 8.22%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	4.37%	▲ 3.49%	▲ 34.86%	▲ 44.99%	▲ 1.61%
差異	▲ 0.11%	▲ 0.29%	▲ 0.36%	▲ 0.45%	▲ 6.61%

### <総資産総額>

純資産総額 3,758百万円

### <組入銘柄数>

銘柄数 (マザーファンド) 1,335

### <信託財産構成比>

### <外国株式組入上位10銘柄>

順位	銘柄	国	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	2.6%
2	AT & T INC	アメリカ	電気通信サービス	1.1%
3	JOHNSON&JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.1%
4	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.0%
5	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	1.0%
6	CHEVRON CORPORATION	アメリカ	エネルギー	1.0%
7	IBM CORP	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.0%
8	NESTLE SA-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.9%
9	BP PLC	イギリス	エネルギー	0.9%
10	WAL-MART STORES	アメリカ	食品・生活必需品小売り	0.9%

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

### <運用コメント>

#### <3月の市場概況>

3月の米国株式市場は、大手金融機関の国有化懸念など悪材料が相次いだことから、株価は下落してスタートしましたが、米銀大手が1-2月期の業績回復を表明したことから、投資家心理が急速に改善し、株価は上昇基調となりました。その後も、米政府が発表した不良資産買取策に対する期待感が高まったことや、住宅関連指標が底打ちの兆しを見せたことなどから、株価は月末にかけて堅調に推移しました。ダウ平均は7,608.92(前月比+7.73%)、ナスダック総合は1,528.59(前月比+10.94%)、S&P500指数は797.87(前月比+8.54%)で終了しました。欧州市場は、金融セクターから悪材料が相次いだことから株価は軟調なスタートとなりましたが、米金融機関から業績回復のコメントが相次いだことから地合いは一変し、株価は上昇に転じました。その後も、米政府を始めとする各国の金融危機対策や、米住宅指標の改善などが好感され、株価は月末にかけて堅調に推移しました。英FT指数は3,926.14(前月比+2.51%)、仏CAC指数は2,807.34(前月比+3.88%)、独DAX指数は4,084.76(前月比+6.27%)で終了しました。

アジア市場については、月初は金融システム不安などから下落してスタートしたものの、米銀大手が業績回復を表明したことをきっかけに株価は反発し、その後も各国政府の金融危機対策などが好感されたことから、株価は月末にかけて堅調に推移しました。豪ASX200指数は3,582.10(前月比+7.10%)、香港ハンセン指数は13,576.02(前月比+5.97%)で終了しました。

外国為替市場は、米連邦準備理事会(FRB)および日銀が国債買入や買入額の増額を発表し金融緩和姿勢を継続する中で、方向感に欠ける展開となりました。円は対米ドルで月間0.43%下落の98.23円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比+4.37%となりました。

項目	国名	比率	
外国株式	[全体]	95.6%	
	<北米>	59.0%	
		アメリカ	54.3%
		カナダ	4.6%
	<アジア・太平洋>	5.2%	
		オーストラリア	3.4%
		香港	1.2%
		シンガポール	0.6%
		ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	31.5%	
		イギリス	9.9%
		フランス	5.2%
		ドイツ	3.9%
		スイス	3.9%
		オランダ	1.1%
		イタリア	1.7%
		スペイン	2.1%
	スウェーデン	1.1%	
	フィンランド	0.6%	
	ベルギー	0.5%	
	アイルランド	0.2%	
	デンマーク	0.4%	
	ノルウェー	0.4%	
	ギリシャ	0.2%	
	ポルトガル	0.2%	
	オーストリア	0.2%	
その他(現金及び株価指数先物)		4.4%	

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	10.19%	8.51%	▲30.46%	▲50.12%	▲33.86%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6%
投資信託	95.4%
合計	100.0%

### 【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

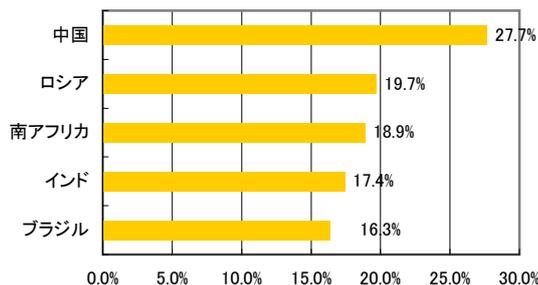
(運用会社: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	10.8%	9.3%	▲31.1%	▲50.8%	▲21.3%

※騰落率については、基準価額に税引き前分配金を再投資して計算しております。  
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。  
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

### <国別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

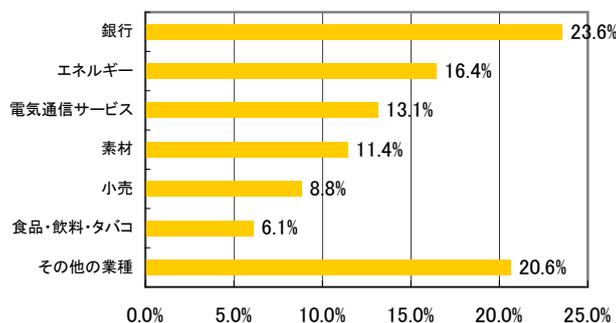
### <株式組入上位10銘柄>(銘柄数 45銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	CHINA MOBILE LTD	中国	電気通信サービス	7.47%
2	OAO GAZPROM-ADR REGS	ロシア	エネルギー	5.50%
3	CHINA CONST BANK -H	中国	銀行	5.22%
4	LI & FUNG LTD	中国	小売	4.31%
5	CIA VALE DO RIO ADR	ブラジル	素材	4.30%
6	CHINA LIFE INSURAN-H	中国	保険	4.25%
7	SBERBANK RF	ロシア	銀行	4.24%
8	PETROLEO BRASILE ADR	ブラジル	エネルギー	4.19%
9	CHINA MERCHANTS BK-H	中国	銀行	3.74%
10	HOUSING DEV FINANCE	インド	銀行	3.56%

(2009年2月27日現在)

※マザーファンド・ベース ※比率は対純資産で計算しています。

### <業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

### <運用コメント>

#### 市場概況

当月のBRICS5カ国を含むエマージング株式市場は、先進国のパフォーマンスを上回って上昇しました。各国での政策対応や世界経済の減速スピードに緩和の兆しが見られたことを受けて、投資家の資金が再びリスク資産に流入する動きが見られました。また、当月は4月2日にロンドンで行われたG20首脳会合の行方に期待が高まりました。国別では、すべての国で上昇となり、特にロシア、中国の上昇率が大きくなりました。

#### 運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は7,310円、前月比10.8%の上昇となりました。
- ・国別の投資比率は中国が20%を上回る比率となった一方で、その他の4カ国は20%以下の比率となりました。
- ・当月は株価要因、為替要因ともにプラスとなりましたが、特にBRICS5カ国株式市場が大幅に上昇したことが基準価額上昇に貢献しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
海外債券型 (GW)	0.93%	2.73%	▲10.21%	▲13.74%	▲12.59%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.0%
投資信託	97.0%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

### <基準価額の騰落率>

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	1.07%	3.12%	▲ 9.92%	▲ 13.13%	17.17%
ベンチマーク	1.42%	1.77%	▲ 8.43%	▲ 8.10%	24.37%
差異	▲ 0.35%	1.34%	▲ 1.50%	▲ 5.03%	▲ 7.20%

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

### <ファンドの一般特性>

平均クーポン	3.54%
平均直接利回り	4.02%
平均最終利回り	6.04%
平均デュレーション	6.55年
平均償還期間	8.98年
平均格付け	AA+
債券組入比率	98.95%

### <国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	30.70%
ユーロ圏	46.42%
イギリス	17.17%
カナダ	3.85%
スウェーデン	0.14%
ポーランド	0.00%
オーストラリア	1.51%
日本	0.21%
合計	100.00%

### <格付構成比>

格付	組入比率
AAA	71.58%
AA	9.91%
A	10.66%
BBB	1.66%
BB以下	0.02%
A1/P1	6.17%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

### <種類別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	77.33%
モーゲージ債、アセットバック債	6.10%
社債	15.52%
キャッシュ等*	1.05%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

### <運用コメント>

#### <市場コメント>

米国債券市場では、米国企業の業績悪化がより顕在化したことや、FRB(米連邦準備制度理事会)における国債の大量購入計画の発表を背景に堅調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.17%、10年債利回りは前月比0.35%低下しました。)

ユーロ圏債券市場では、ECB(欧州中央銀行)による政策金利の引き下げが行われたことや、景況感の弱さを示す経済指標が散見されたことをうけ堅調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.08%、10年債利回りは前月比0.12%低下しました。)英国債券市場では、BOE(イングランド銀行)による政策金利の引き下げや、量的緩和政策の導入を受け総じて堅調に推移しました。(2年債利回りは前月比0.25%、10年債利回りは前月比0.46%低下しました。)

日本債券相場は、米政府による不良資産買取策の発表を受けて日経平均が8,000円台を回復したことや、麻生首相が追加経済対策の財源には赤字国債の発行も辞さない旨を示唆したことで国債の需給悪化が認識され、相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.02%、10年債利回りは前月比0.07%上昇しました。)

#### <パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはプラス1.07%となり、ベンチマークを0.35%下回りました。米国のデュレーションをオーバーウェイトとした金利戦略はプラスに寄与した一方で、社債への投資等のセクター戦略や米国において長短金利差の拡大を見越した戦略がマイナスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	2.67%	▲1.95%	▲7.61%	▲10.19%	▲9.99%

## 特別勘定資産内訳

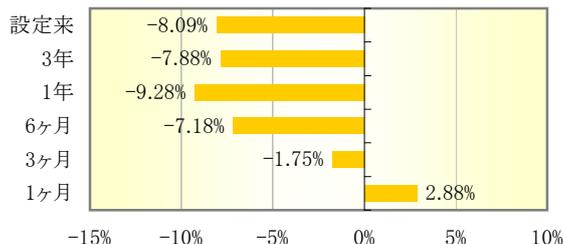
	構成比(%)
現預金・その他	4.3%
投資信託	95.7%
合計	100.0%

### 【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

### <期間別騰落率> 累積収益率



※累積収益率は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(課税前)を再投資したものと算出。  
※累積収益率は実際の投資家利回りと異なります。

### <組入上位5銘柄の組入比率>

	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第2回物価連動国債(10年)	1.100%	2014/06/10	41.8%
2	第4回物価連動国債(10年)	0.500%	2015/06/10	35.7%
3	第3回物価連動国債(10年)	0.500%	2014/12/10	12.4%
4	第1回物価連動国債(10年)	1.200%	2014/03/10	7.1%
5	第5回物価連動国債(10年)	0.800%	2015/09/10	1.5%

### <ポートフォリオの状況>

組入銘柄数	5銘柄
公社債の平均残存期間	5.62年

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

国内債現物	98.5%
国内債先物	0.0%
その他資産	1.5%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

### <公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年～3年	0.0%
3年～7年	98.5%
7年～10年	0.0%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

### <運用コメント>

#### ■先月の投資環境

第1回物価連動国債利回りは、3月末現在で2.45%と前月末比0.61%低下しました。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債(第258回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までにどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初マイナス2.2%前半で始まり、3月下旬にかけてマイナス幅を縮小させ、マイナス1.1%台半ばとなりました。しかし、その後月末にかけてはマイナス幅が拡大し、月末はマイナス1.6%程度となりました。この結果、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅は前月末比で縮小しております。

ほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが上昇(10年長期国債(第258回債)複利利回りで0.06%の利回り上昇)したものの、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅が縮小したため、第1回物価連動国債の利回りは低下しました。同様に、第2回～第16回物価連動国債についても、物価連動国債利回りは低下しました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の3月末の連動係数は、2月末比0.6%程度低下しました。

#### ■先月の運用概況

物価連動国債を高位に組入れているポートフォリオを維持しました。

組入れた公社債の平均残存期間は5.62年となっております。

かかる運用の結果、10年長期国債利回りが上昇したことや、物価連動国債の連動係数の低下がマイナスに影響したものの、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅縮小がプラスに寄与したことから、当ファンドの3月末の基準価額は9,094円と前月末比255円の上昇となりました。

#### ■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPIの足元の状況については、2008年半ば以降、原油価格が急落したことや、世界的な景気後退の中で物価低下圧力が強まったこともあり、3月下旬に発表された2月の値で前年同月比0.0%となりました。コアCPIの値は従来当社が想定していたよりも早いペースで低下しており、2009年前半には前年同月比の値でマイナス水準になる可能性が高いと見込んでおります。また、3月中にはブレイクイーブンインフレ率の水準はマイナス幅を縮小したものの、依然として低い水準での推移となっております。

今後につきましては、現在の金融市場を取り巻く環境が徐々に改善していけば、ブレイクイーブンインフレ率の水準も修正されていくものと考えます。また、中長期的には社会保障費の増加に伴う消費税の引き上げも議論されてくるものとの判断の下、期待インフレ率及びコアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外リート型 (GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信 (REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

### ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点「100」として指数化したものです。

### ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外リート型 (GW)	▲0.98%	▲19.89%	▲56.70%	▲61.61%	▲70.01%

### 特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	4.5%
投資信託	95.5%
合計	100.0%

【参考】 海外リート(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ムラ海外REIT インデックス・ファンドVA (適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ムラ海外REITインデックス ファンドVA	▲ 0.9%	▲ 20.6%	▲ 57.6%	▲ 62.3%	▲ 67.8%
ベンチマーク	▲ 1.5%	▲ 21.2%	▲ 58.2%	▲ 62.5%	▲ 67.3%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」は「ザ・マグロウヒル・ファンパニーズの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース) はS&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、ドルベース) を委託会社において円換算したものです。

### <資産配分比率>

資産種別	総資産比
REIT(リート)	98.9%
その他	1.1%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。  
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

### <実質通貨別配分>

通貨	総資産比
日本・円	0.0%
外貨計	100.0%
アメリカ・ドル	52.9%
ユーロ	13.3%
イギリス・ポンド	8.8%
その他外貨	25.0%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

### <国・地域別配分>

国・地域	総資産比
アメリカ	52.7%
オーストラリア	15.9%
イギリス	8.8%
フランス	8.7%
シンガポール	3.1%
その他の国	10.7%
合計	100.0%

### <REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄名	国・地域名	総資産比
1	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	8.2%
2	UNIBAIL RODAMCO	フランス	5.7%
3	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	4.1%
4	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.4%
5	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.4%
6	LAND SECURITIES GROUP PLC	イギリス	2.3%
7	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.3%
8	LINK REIT	香港	2.3%
9	BRITISH LAND	イギリス	2.3%
10	HCP INC	アメリカ	2.2%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。  
※国・地域名は発行国・地域で区分しております。

### <市場コメント>

●一部銘柄の破たん懸念や景気後退に伴う商業用施設・オフィスの稼働率低下懸念などから米国を中心に外国リート市場は下落しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

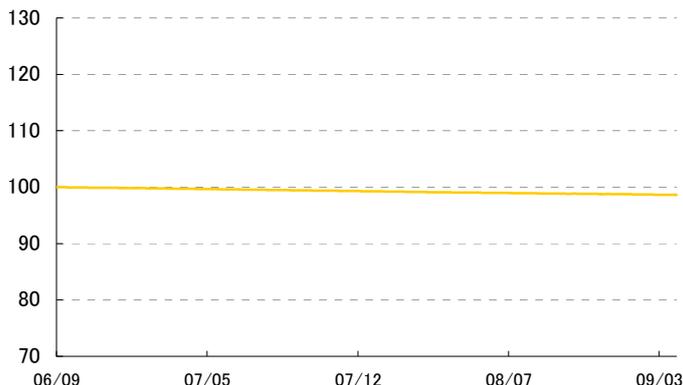
特別勘定名称

# マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
マネープール型 (GW)	▲0.04%	▲0.15%	▲0.24%	▲0.50%	▲1.38%

## 特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	13.5%
投資信託	86.5%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。

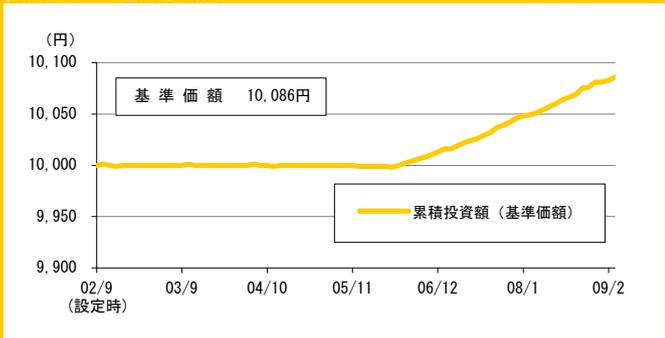
## 【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

#### 設定来の運用実績 (2009年3月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。  
ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
※基準価額は信託報酬控除後のものです。

純資産総額 179.0 億円 (2009年3月31日現在)

#### 商品概要 2009年4月(月次改訂)

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

#### 累積リターン (2009年3月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.03%	0.05%	0.17%	0.35%	0.86%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

#### 過去5期分の収益分配金(税込み)

第3期(2004.11.30)	0円
第4期(2005.11.30)	0円
第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円

(2009年2月27日現在)

#### <資産別組入状況>

債券	92.7%
CP	-
CD	-
現金・その他	7.3%

#### <組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	92.7%
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		7.3%

平均残存日数	48.11日
平均残存年数	0.13年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

#### 組入上位10銘柄(マザーファンドベース) (2009年2月27日現在)

順位	銘柄	種類	格付	比率
1	第563回 政府短期証券 2009/04/20	債券	AA/Aa	12.9%
2	第5回 国庫短期証券 2009/05/25	債券	AA/Aa	12.9%
3	第554回 政府短期証券 2009/03/09	債券	AA/Aa	10.8%
4	第564回 政府短期証券 2009/04/27	債券	AA/Aa	10.8%
5	第555回 政府短期証券 2009/03/16	債券	AA/Aa	8.6%
6	第559回 政府短期証券 2009/03/27	債券	AA/Aa	8.6%
7	第561回 政府短期証券 2009/04/13	債券	AA/Aa	8.6%
8	第3回 国庫短期証券 2009/05/18	債券	AA/Aa	8.6%
9	第558回 政府短期証券 2009/03/23	債券	AA/Aa	6.5%
10	第565回 政府短期証券 2009/05/07	債券	AA/Aa	4.3%

(組入銘柄数:10)

上位10銘柄合計 92.7%  
(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## ご注意いただきたい事項

### ▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて死亡給付金額、年金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回る場合があります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢などの諸条件により、ご契約者などが受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

### ▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料(増額保険料を含む)に対して <b>5.0%</b> を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して <b>(年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日</b> を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用: 運用実績を毎日判定し、運用実績が <b>年率1.5%を超過</b> した場合のみ、 <b>超過分1%あたり0.1%(上限1.25%)</b> を控除します。
契約管理費	基本保険金額が100万円未満のご契約に対し、 <b>毎月500円</b> を積立金から控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 <b>移転一回につき1,000円</b> を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の <b>1%</b> を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) <b>年率0.42%程度</b>
	日本株アクティブ型(GW) <b>年率0.924%程度</b>
	海外株式型(GW) <b>年率0.399%程度</b>
	新興成長国株式型(GW) <b>年率1.155%程度</b>
	海外債券型(GW) <b>年率0.9135%程度</b>
	日本債券型(GW) <b>年率0.252%~0.3675%程度</b>
	海外リート型(GW) <b>年率0.42%程度</b>
マネープール型(GW) <b>年率0.008925%~0.525%程度</b>	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「ダイレクト年金e-VA」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほか、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

ご検討に際しては、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」をご契約前に十分にお読みいただき、投資リスクや負担いただく諸費用等の内容についてご確認・ご了解ください。また、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」等をあわせてご覧のうえ、お申込みいただきますようお願いいたします。詳細につきましては弊社ホームページをご覧ください。